

学校だより

令和6年7月1日(月) 第4号

自ら学ぶ生徒・心の豊かな生徒・強くたくましい生徒

さいたま市立西原中学校

住所 さいたま市岩槻区大字岩槻3750番地

電話 048-756-1117

学校Web ページ <https://nishihara-j.saitama-city.ed.jp/>

ボランティア活動の意義

校長 細井博幸

5月31日に第1回の学校運営協議会が行われました。本校は、目指す学校像を「地域の学校として学校・家庭・地域が連携・協働し、社会に貢献できる人材を育む学校」としています。会議の中で、「西原中生が地域に貢献できるボランティア活動をもっと広めることができなにか」について話し合いました。すると委員の方から、今年度の中学1年生から入試が変わり、ボランティア活動が調査書に記載されなくなるという話題が保護者の中で上がっているというお話がありました。埼玉県教育委員会の資料によると、確かに1年生が受検する令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜から選抜方法が新しくなり、学校が作成する調査書は、学習の記録(評定)の記載が中心となります。これまで「特別活動等の記録」や「その他」の欄に記載していた学校内外での活動や意欲等に係る内容は、受検生全員が提出する自己評価資料という新しい様式に、自分の言葉で表現します。自己評価資料は面接を行うときの補助的な資料となり、今後は面接において意欲や学びに向かう力を評価することになるそうです。これまでのようにボランティア活動が調査書に記載されなくなるということは、その活動の評価についても変更の可能性があることが考えられます。今後、ボランティア活動の意義は薄れてしまうのでしょうか。

そもそもボランティアの語源はラテン語の *Voluntas* であり「自由意志」を意味し、1650年前後にイギリスで使われ始めた言葉です。この言葉が日本に入り、広辞苑に掲載されたのは、海外に300年遅れての1969年のことであり、まだ50年程度しか経っていません。平成19年と少し古い調査ですが、文部科学省の調査では、ボランティアに定期的に参加している日本人の割合は9.2%であり、欧米では26~37%であることと比べると、低いことが分かります。この背景には、日本でのボランティア活動が「困っている人を助ける」と定義されがちであり、欧米での「資金の調達や、文化活動、イベントの運営、福祉を中心とした社会活動など、自分の持っている技術や知識を生かして社会貢献する」とことと意味合いが違っているのかも知れません。そう考えると、自治会や第3体育振興会、社会福祉協議会、青少年育成、民生・児童委員、そして西原中PTAなどは、まさに地域への社会貢献であり、欧米でのボランティア活動と言えるのではないのでしょうか。そう考えると、日本でのボランティア活動も欧米並みなのかも知れません。

私自身のボランティア活動と言いますと、今から20年ほど前からですが、浦和区大東にあるNPO法人彩星学舎というフリースクールに関わっていた時期がありました。不登校や発達障害など多様なニーズをもつ子ども・青年たちが、畑作、調理、自然キャンプ、演劇、タイへの研修旅行など「学びのコミュニティー」での経験を通して、個々の問題が解消される過程(プロセス)に重点をおいた教育がなされていました。ボランティアといっても何か役割が与えられ、子どもたちに指導を行うのではなく、ただただ子どもたちと同じ立場で、子どもたちと関わりながら活動するものでした。当初は参加するだけで役に立っているのだろうかなど感じることもありましたが、その場所に存在することが認められ、何かを押し付けられることもなく、自分の思いに沿って行動する場所であることが「学びのコミュニティー」たる所以だったのかなと感じています。そして通う子どもたちの個々の問題が解消されていく姿を目の当たりにし、学びのコミュニティーの力を感じていました。右の写真は、タイ研修旅行の様子です。タイのサンクラブリにある孤児院で宿泊をしながら、孤児や現地の小学校との交流などをしました。私は、日本から手打ちうどんの道具一式を持って参加し、現地の人達に振舞いました。タイの子どもたちのキラキラとした興味関心に溢れた眼差しが忘れることができません。私は、ボランティア活動に一步踏み出せたことで、一生忘れられない思い出をつくることができました。私はボランティアとは、「困っている人を助ける」ことだけでなく、「必要とされる場所にいる」ことが楽しいと感じられることが大切だと考えています。様々な人達との関わり合いを通して人としての成長が得られると感じています。さらに、ボランティア活動に興味があり活動をしている人は幸福度が高いという調査結果もあります。



令和9年度埼玉県公立高等学校入学者選抜から、調査書そのものにボランティア活動について記載されることはなくなるかもしれませんが、自分の言葉で表現した自己評価資料をもとに、「これまでの取組の過程や意欲、今後の取組に対する意欲」が評価される面接を行う上で、ボランティア活動での経験は、むしろこれまで以上に重要な意味をもつのではないかと考えます。先日、「さいたま夏のボランティア体験」のちらしが子どもたちに配られました。地域で育てられた西原中生が、地域から必要とされ、ボランティアとして活躍したとの話が、今年の夏もたくさん聞きたいものです。

1学期の学校だよりも今号で最後となります。体育祭の実施時期変更など、学校行事が多く感じた1学期だったかと思いますが、地域、保護者の皆様の御理解、御協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。